

新時代とやま ハイスクール

再構築ガイドライン (案)

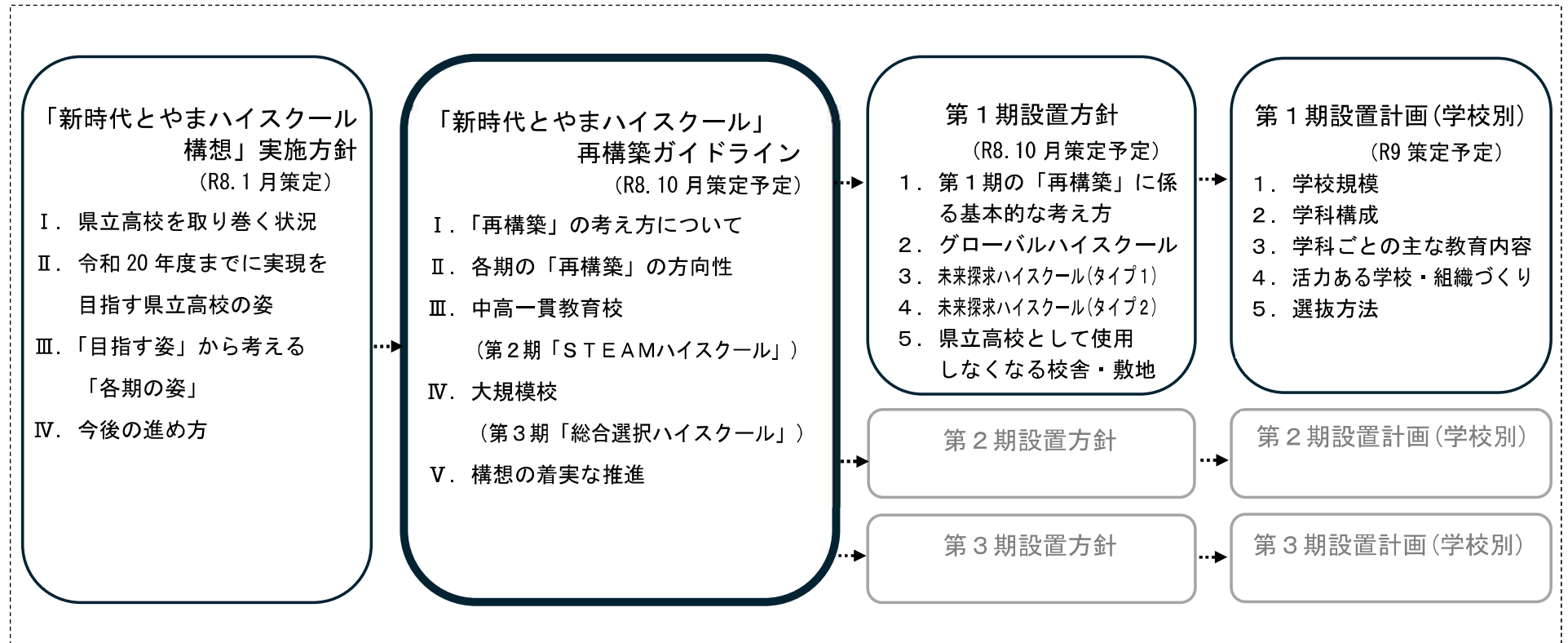


はじめに

このガイドラインは、「新時代とやまハイスクール構想」実施方針を踏まえて、現在の県立高校（全日制）34校を7つの学校類型へと「再構築」していくための基本的な考え方をはじめ、この構想の推進に必要な要素を細分化して示すものです。

実施方針と同様に、構想を推進するための「羅針盤」として位置付けるものであり、国のブランドデザインも踏まえながら、社会情勢の変化や今後の中学校卒業予定者数の状況などに応じて、必要な場合は見直しを行いつつ、構想を着実に推進していきます。

「新時代とやまハイスクール」再構築ガイドラインの位置づけ



目 次

I. 「再構築」の考え方について	・ ・ ・ 1
1. 「再構築」の方法	
2. 検討の流れ	
3. 新時代HSへの移行手順	
4. 各高校における教育内容を踏まえた「再構築」のイメージ	
II. 各期の「再構築」の方向性	・ ・ ・ 4
1. 実施方針における「各期の姿」	
2. 第3期（令和20年度頃）における学科構成（目安）	
3. 第2期（令和15年度頃）の「地域共創ハイスクール」設置に向けた方針	
4. 各期における配置数（目安）	
（参考）中学校卒業予定者数と募集定員（目安）	
III. 中高一貫教育校（第2期「STEAMハイスクール」）	・ ・ ・ 9
1. 設置場所	
2. 教育内容等	
3. 学校規模	
4. 中学校入学時の選抜方法	
IV. 大規模校（第3期「総合選択ハイスクール」）	・ ・ ・ 10
1. 設置場所	
2. 教育内容等	
3. 学校規模	
4. 整備方法	
V. 構想の着実な推進	・ ・ ・ 14

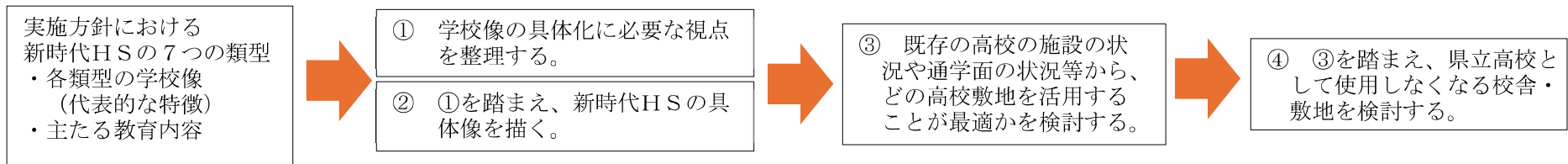
I. 「再構築」の考え方について

新時代とやまハイスクール構想では、将来あるべき姿を描いたうえで、そこからバックキャストिंगの考えで各期の姿を描き、段階的に再編等を行うこととした。このため、全ての県立高校（全日制）34校を移行準備校と位置付け、これまでの各校の教育内容や教育環境に、将来を見据えた新たな取組みを加え、新しい学校へと「再構築」していく。その際には、生徒に幅広い選択肢を提供する観点から検討を行い、移行準備校の中から適切な敷地を活用する。

1. 「再構築」の方法

- ①これまでの各高校における教育内容をもとに、
- ②将来を見据えた新たな取組み（教育内容、教育環境、学校運営など）を加え「今後必要と考えられる教育内容」を整理し、
- ③その教育内容を様々な学校規模で組み合わせ、7つの学校類型に分類したうえで、
- ④今後の中学校卒業予定者数や通学の利便性を考慮し、新時代とやまハイスクール（以下「新時代HS」という。）を県内にバランスよく配置する。

2. 検討の流れ

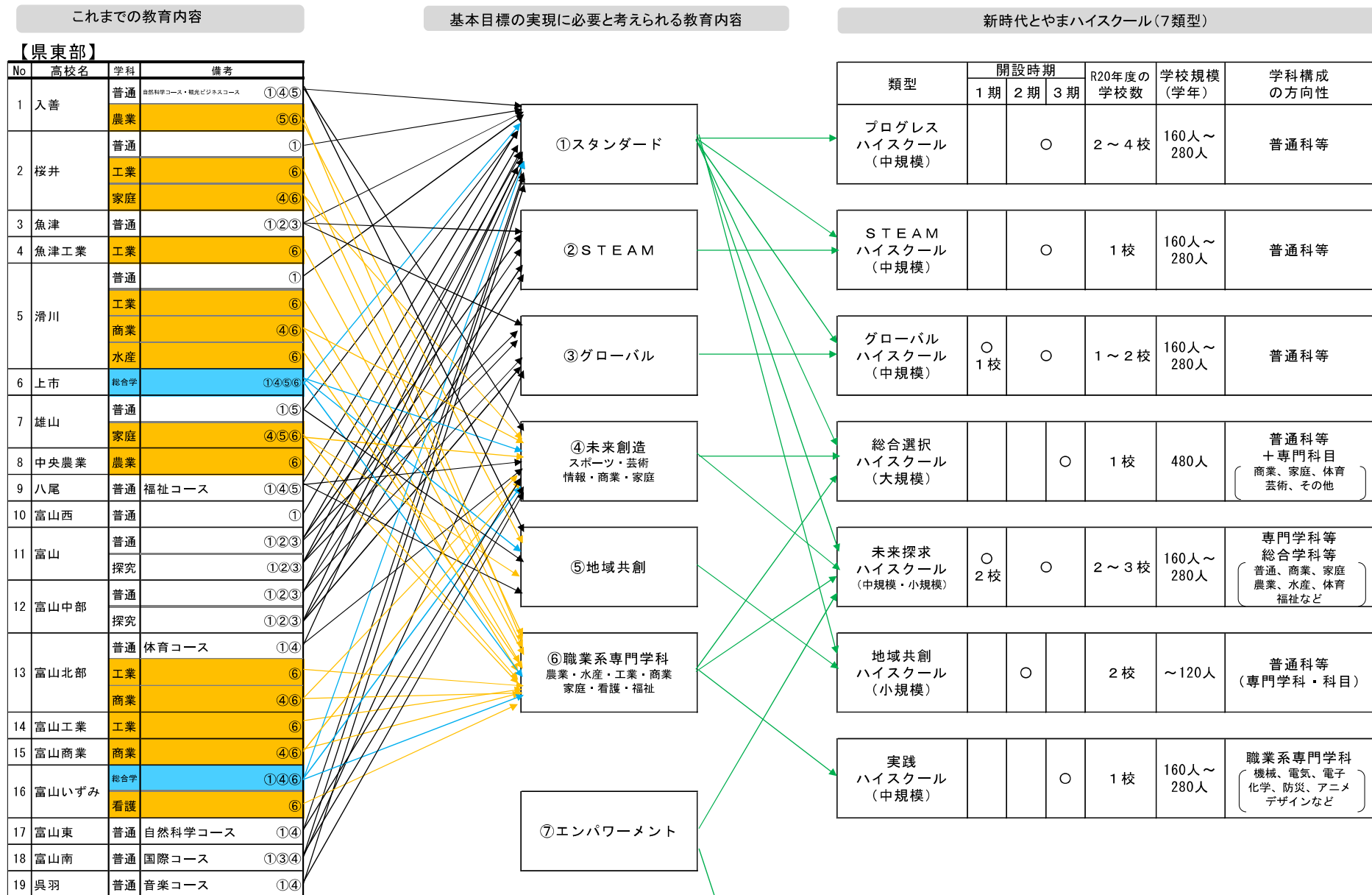


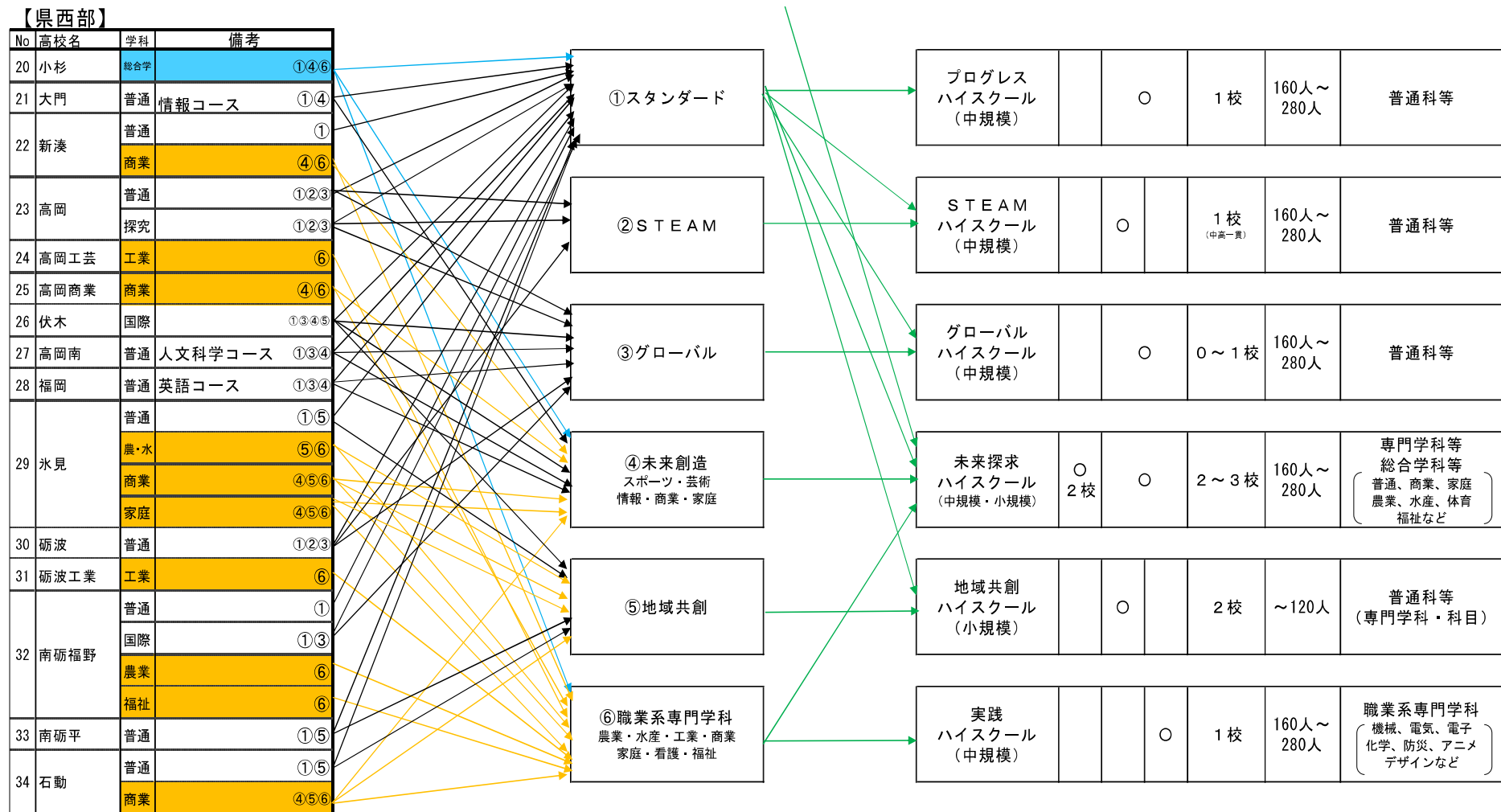
3. 新時代HSへの移行手順

【基本的な考え方】

- ・移行準備校（34校）に現在設置されている各学科は、各期に順次、募集停止とし新時代HSを設置していく。
- ・その上で、新時代HSの学校名等は、敷地を活用することとなる移行準備校の学校名やその変遷等も踏まえ、検討する。

4. 各高校における教育内容を踏まえた「再構築」のイメージ





Ⅱ. 各期の「再構築」の方向性

1. 実施方針における「各期の姿」

今後の段階的な「再構築」の着実な推進に向け、次のとおり新時代ハイスクール構想「実施方針」で示した「各期の姿」の明確化を図る。

＜実施方針 P. 16 「目指す姿」から考える「各期の姿」＞

全県		県西部(砺波学区・高岡学区)			県東部(富山学区・新川学区)				
大規模校		中規模校・小規模校			中規模校・小規模校				
第3期	令和20年度頃	★ 総合選択	★ プロGRESS STEAM 未来探求 計8校程度	★ グローバル 未来探求 未来探求 計8校程度	★ 実践 地域共創 計8校程度	★ プロGRESS プロGRESS 未来探求 グローバル 未来探求 未来探求 計11校程度	★ プロGRESS プロGRESS 未来探求 未来探求 未来探求 計11校程度	★ 実践 地域共創 計11校程度	全県 20校程度 募集定員(目安) 4,200人程度
	バックキャスト								
第2期	令和15年度頃		★ STEAM 未来探求 移行準備校6校程度 計11校程度	★ 地域共創 未来探求 未来探求 計11校程度	★ 地域共創 計11校程度	★ プロGRESS 未来探求 グローバル 未来探求 未来探求 移行準備校8校程度 計15校程度	★ STEAM 未来探求 未来探求 計15校程度	★ 地域共創 未来探求 未来探求 計15校程度	全県 26校程度 募集定員(目安) 5,000人程度
	バックキャスト								
第1期	令和11年度頃		★ 未来探求 未来探求 移行準備校1校程度 計13校程度	★ 未来探求 未来探求 計13校程度		★ グローバル 未来探求 未来探求 移行準備校4校程度 計17校程度	★ 未来探求 未来探求 計17校程度		全県 30校程度 募集定員(目安) 5,500人程度
現在	令和8年度								全県 34校程度 募集定員 5,926人

※ ★は、各期に設置する「新時代 HS」を示す。

2. 第3期（令和20年度頃）における学科構成（目安）

- ・ 令和20年度における新時代とやまハイスクールの学科構成は、以下を目安とし、今後の社会情勢の変化や中学校卒業予定者数の状況、国の高校改革の方向性等に応じて、必要な場合は、学科改編や新たな学科の設置などの見直しを行いつつ検討を進める。

実施方針	令和20年度における配置数（目安）	県西部	県東部	学校数
		8校程度	12校程度	20校程度
		プログレス STEAM 未来探求	総合選択 プログレス プログレス グローバル STEAM 未来探求	
		グローバル 未来探求	実践 地域共創 未来探求	

《学科構成・学校規模（目安）》

学校規模	県西部			県東部				学校数
	大規模校 480人			総合選択				1校
	中規模校 160人～280人	未来探求 専門学科等 (商業、情報、その他) プログレス 普通科等 実践 職業系専門学科 (機械、電気、電子、化学、防災、アニメデザインなど)	未来探求 総合学科等 (普通、商業、家庭農業、体育、福祉など) グローバル/未来探求 普通科等 専門学科・科目 地域共創 普通科等 (専門学科・科目)	STEAM	普通科等			15校程度
	小規模校 ～120人	地域共創 普通科等 (専門学科・科目)	地域共創 普通科等 (専門学科・科目)	未来探求 専門学科等 (商業、情報、その他) プログレス 普通科等 実践 職業系専門学科 (機械、電気、電子、化学、防災、アニメデザインなど)	未来探求 総合学科等 (普通、商業、家庭農業、水産、体育福祉など) プログレス 普通科等 地域共創 普通科等 (専門学科・科目)	STEAM	普通科等	4校程度
上記のサテライトキャンパス		+ α					+ α	+ α

3. 第2期（令和15年度頃）の「地域共創ハイスクール」設置に向けた方針

実施方針	令和15年度 における 配置数 (目安)	県西部			県東部				学校数
		STEAM	地域共創	地域共創	プログレス 未来探求	STEAM	地域共創	地域共創	26校 程度
		未来探求	未来探求		グローバル	未来探求	未来探求		
		移行準備校 6 校程度		計11校程度	移行準備校 8 校程度		計15校程度		

（1）実施方針における「地域共創ハイスクール」の姿

目指すべき学校像	主たる教育内容	学校規模
○地域の協働とフィールドワーク 地域の課題解決や魅力発信に貢献できる力を高める。 ・地元の企業や自治体と連携した探究活動を推進 ・地域の特色ある産業、スポーツ、郷土芸能に関連する探究活動や部活動を充実 ・コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入	「スタンダード」＋「<u>地域共創</u>」 ねらい ふるさとに誇りと愛着を持ち、様々な関係者と協働しながら、地域づくりを担うことができる人材を育成 特色ある取組み（例） ・地元の企業や自治体の抱える課題の解決を図る探究活動を推進 ・地域の特性と高校生の発想を掛け合わせた事業を提案 ・特色ある部活動（スポーツ、郷土芸能など）を充実	・小規模校（1学年120人以下） ・小規模校ならではの特色ある教育活動の展開や長期的なニーズ、通学時間の観点から、地域バランスにも配慮して設置する。

（2）第1期「再構築」における対応

- ① 第2期に設置を目指す「地域共創ハイスクール」については、主に小規模校ならではの特色ある教育活動の展開を目指している。
- ② 現在、各高校で行われている「地域と連携した教育活動」を充実しつつ、第2期の「地域共創ハイスクール」につなげることとなる。
- ③ また、こうした取組みに対する生徒のニーズを考慮した上で、地域バランスにも配慮しながら「地域共創ハイスクール」の設置場所を設定する。

以上の観点から、市・町に1校のみの県立高校については、第1期の再構築では、閉校しないこととする。

4. 各期における配置数(目安)

- ・令和20年度以降も中学校卒業予定者数の減少が見込まれることを考慮し、1校あたりの定員規模を一定程度確保するとともに、大・中・小規模の学校をバランスよく配置し、生徒に多様な選択肢を提供できるよう、第3期(令和20年度)の学校数の目安を20校程度とする。
- ・令和20年度の姿からバックキャスティングの考え方で各期の姿を描き、各期の再構築後の移行準備校を含めた県立高校(全日制)の配置数は、第2期(令和15年度頃)は26校程度、第1期(令和11年度)は31校とする。
- ・新時代HSを県内にバランスよく配置していけるよう、公共交通機関等による通学の利便性を考慮し、以下の6エリアごとに各期の配置目安数を示す。

各期の 学校数の目安		県西部			県東部			募集定員(目安) 1校当たりの 平均募集定員
第3期	R20年度頃の 再構築後	8校程度+α			12校程度+α			4,200人程度 〔1校当たり 平均200人程度〕
	20校程度+α	砺波・南砺 2～3校	高岡・氷見・小矢部 5～6校	射水 1～2校	富山 8～9校	滑川・中新川 1～2校	魚津・黒部・下新川 2～3校	
↓ バックキャスト								
第2期	R15年度頃の 再構築後	11校程度+α			15校程度+α			5,000人程度 〔1校当たり 平均190人程度〕
	26校程度+α	砺波・南砺 3～4校	高岡・氷見・小矢部 6～7校	射水 2校	富山 8～10校	滑川・中新川 2～3校	魚津・黒部・下新川 3～4校	
↓ バックキャスト								
第1期	R11年度の 再構築後	13校			18校			5,500人程度 〔1校当たり 平均180人程度〕
	31校	砺波・南砺 4校	高岡・氷見・小矢部 7校	射水 2校	富山 11校	滑川・中新川 3校	魚津・黒部・下新川 4校	
↓ バックキャスト								
現在	R8年度	15校			19校			5,926人 〔1校当たり 平均174人〕
	34校	砺波・南砺 4校	高岡・氷見・小矢部 8校	射水 3校	富山 12校	滑川・中新川 3校	魚津・黒部・下新川 4校	

※学校数の「+ α 」はサテライトキャンパスを含む学校数

(参考)

中学校卒業予定者数

募集定員（目安）※

県西部				県東部			全県
砺波・南砺 高岡・氷見・小矢部 射水				富山	滑川・中新川	魚津・黒部・下新川	
R ²⁰ 年度頃	2,426 ▲25.2%			3,584 ▲26.3%			6,010 ▲25.9%
	515	1,293	618	2,540	490	554	
	▲35.5%	▲23.0%	▲19.3%	▲25.1%	▲24.4%	▲32.8%	
R ¹⁵ 年度頃	2,929 ▲9.7%			4,258 ▲12.4%			7,187 ▲11.3%
	642	1,581	706	2,997	587	674	
	▲19.5%	▲5.9%	▲7.8%	▲11.6%	▲9.4%	▲18.2%	
R ¹¹ 年度	3,188 ▲1.7%			4,640 ▲4.6%			7,828 ▲3.4%
	757	1,655	776	3,231	600	809	
	▲5.1%	▲1.5%	+1.3%	▲4.7%	▲7.4%	▲1.8%	
R ⁸ 年度	3,244			4,863			8,107
	798	1,680	766	3,391	648	824	

※下段の割合は令和8年度に対する減少率

県西部	県東部	全県
1,700	2,500	4,200
2,050	2,950	5,000
2,250	3,250	5,500
2,436	3,490	5,926

※R¹¹年度以降は中学校卒業予定者数の7割を目安に算出

Ⅲ. 中高一貫教育校（第２期「ＳＴＥＡＭハイスクール」）

１. 設置場所

設置することとしている県西部における通学の利便性や施設の状況を考慮し、現在の「高岡高校敷地」を活用する。

- ・ＪＲ氷見線越中中川駅から徒歩５分であり、県西部地域をはじめ広域的に通学が可能。
- ・探究活動の成果発表等に活用できる記念館（蛍雪館）が整備されている。

２. 教育内容等

- ・「ＳＴＥＡＭ」について継続的かつ計画的に学ぶことや、多様な価値観に接することができるよう、高校の教育内容として「スタンダード」と「ＳＴＥＡＭ」を組み合わせた「併設型」の中高一貫教育校とする。
- ・中学生と高校生の混合グループによる探究活動を実施し、中学生の探究活動への意欲向上や高校生が中学生に教えることで自分自身の学びを深める機会につなげ、より多角的な視点からテーマを深掘りするなど、「併設型」の特色を活かす。
- ・こうした中学校及び高校の具体的な教育内容について、県教育委員会と学校関係者によるプロジェクトチームを中心として、今後、検討を進める。

３. 学校規模

中学校２学級程度、高校６学級程度を目安として検討する。

４. 中学校入学時の選抜方法

文部科学省の公立中高一貫教育校に係る通知等を踏まえ、探究活動に対する意欲、思考力・表現力、協働する力などから総合的に評価することができるよう、今後、小学校・中学校・高校等の関係者と協議しながら検討を進める。

Ⅳ. 大規模校（第３期「総合選択ハイスクール」）

１．設置場所

- ・ 県全域からの通学の利便性を考慮し、現在の「呉羽高校敷地」を活用する。
- ・ 併せて、隣接する「富山市舞台芸術パーク」の敷地の一部を活用する。その活用エリア等については、富山市と協議を行い決定する。

２．教育内容等

- ・ 多くの科目や部活動から選択が可能で、多様な考え方に接することにより、他者と協働して社会参画できる力を高める。
- ・ 共通科目に加え、スポーツや芸術に関する専門科目のほか、外国語や職業系専門科目など、多様な科目の中から系統的に組み合わせた学び（学系）を提供する。
- ・ 生徒が学年の区分なく興味関心や進路希望に合わせて選択できる教育課程となるよう「単位制」としての開設を視野に検討を進める。
- ・ 学科構成や必要となる施設整備等を含めた「整備構想」の策定に向け、今後、県教育委員会内に検討体制を構築し、具体的な検討を進める。

3. 学校規模

以下の比較検討をもとに多様な選択科目や部活動の開設、学校運営等の観点から、12 学級程度を目安として検討する。

※ 1 学年当たりの学級数による学系独自の選択科目時数の目安

(単位:時間)

学級数	教員配置数※ ¹	【a】 週当たりの 授業時間総数※ ²	【b】 必履修・共通 選択科目時数※ ³	【a－b】 学系独自の選択科目の開設可能時数※ ⁴						
				各学系に必要な時数の目安※ ⁵						
				スポーツ 25	音楽 25	美術 25	書道 20	語学 30	職業系専門 科目等※ ⁶ 各 20～30	
8 学級	64 人程度	960	900	60	○	○	—	—	—	—
10 学級	80 人程度	1,200	1,100	100	○	○	○	○	—	—
12 学級	94 人程度	1,410	1,260	150	○	○	○	○	○	○

※1 普通科(単位制)における標準的な教員配置を想定

※2 便宜上、教員配置数×15 時間(教員 1 人の週当たり持ち時数)として試算

※3 必履修科目と全学系共通の選択科目を開設するために最低限必要となる時間数

便宜上、週当たりの授業時数を 31 時間(総合的な探究の時間を含む。平日は 6 限授業を基本に 1 日のみ 7 限授業と想定)として試算

※4 スポーツ学系、芸術学系、専門分野学系等における独自の選択科目が開設可能となる時間数の目安

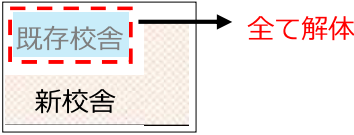
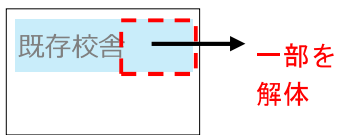
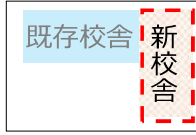
※5 各学系に充てる独自の選択科目時数の目安(他県の大規模校の教育課程をもとに試算)

※6 職業系専門科目等は農業、家庭、商業、情報などを想定

4. 整備方法

以下の比較検討をもとに「新築」または「既存施設の活用」を検討する。

(1) 建設費の目安

学級数 / 建設方法	A. 新築 (既存校舎を全て解体)	B. 一部改築 (既存校舎を一部活用)	C. 増築 (既存校舎を全て活用)
建設方法のイメージ	① 新校舎を新築  ② 既存校舎を全て解体 	① 既存校舎の一部を解体  ② 解体後の跡地に新校舎を増築 	① 既存校舎を全て活用し、校舎を増築 
1 学年 12 学級 (建物延床面積：24,900 m ²)	約 160 億円 〔うち 既存校舎解体：約 9 億円〕	約 135 億円 〔うち 既存校舎解体：約 4 億円 増築：約 90 億円 長寿命化改修：約 24 億円〕	約 120 億円 〔うち 増築：約 66 億円 長寿命化改修：約 38 億円〕
1 学年 10 学級 (建物延床面積：22,900 m ²)	約 150 億円 〔うち 既存校舎解体：約 9 億円〕	約 125 億円 〔うち 既存校舎解体：約 4 億円 増築：約 80 億円 長寿命化改修：約 24 億円〕	約 110 億円 〔うち 増築：約 56 億円 長寿命化改修：約 38 億円〕

※ 建設単価は、過去の県立学校建設時における、構造ごと（RC造、S造）の建設単価に令和8年度までの物価上昇率を乗じて算出

(2) 建設方法ごとのメリット・デメリット

区分	A. 新築 (既存校舎を全て解体)	B. 一部改築 (既存校舎を一部活用)	C. 増築 (既存校舎を全て活用)
比 較	・大規模校のねらいとする教育の提供に必要な学校全体の空間設計が可能。 ・老朽化対策が不要。 ・省エネ性能が高く維持管理費が低く抑えられる。 ・建設費用が最も高い。	・既存校舎の一部解体後の跡地に新校舎を建設するため、工期が最も長い。 ・その他の項目は中程度。	・大規模校のねらいとする教育の提供に必要な学校全体の空間設計に難あり。 ・将来的に老朽化対策が必要。 ・維持管理費が高くなる。 ・建設費用が最も低い。
学校全体の空間設計	良 大人数の生徒の一斉移動に配慮した廊下幅も確保可能。	中程度	制約多い
建設費用※	多 〔 12 学級 約 160 億円 10 学級 約 150 億円 〕	中間 〔 12 学級 約 135 億円 10 学級 約 125 億円 〕	少 〔 12 学級 約 120 億円 10 学級 約 110 億円 〕
設計・工事期間※	中間 (7 年程度) 現グラウンド等に建設	多 (8.5 年程度) 既存校舎解体地に建設のため	少 5.5 年程度
老朽化対応	解消	残る	残る R20時点で築 50 年以上となり、将来的に建て替えが必要
管理費用 ・省エネ性能、維持修繕費	少	中間	多

※ 令和 8 年度現在の市場動向等を踏まえたもの

V. 構想の着実な推進

内容	検討の場	取りまとめ時期
1. 第1期「設置計画」の取りまとめ 第1期「設置方針」取りまとめ後、プロジェクトチームを設置し、以下の内容について学校ごとに検討を行い「設置計画」を取りまとめる。 ① 学校規模 ② 学科構成 ③ 学科ごとの主な教育内容 ④ 活力ある学校・組織づくり ⑤ 選抜方法	教育委員会事務局及び学校関係者によるプロジェクトチーム 総合教育会議	令和9年中を目途
2. 県立高校の魅力向上・特色化の推進 国のネクストハイスクール構想を踏まえ、国交付金等を活用しながら、地元自治体や地域、企業、高等教育機関等と連携し、県立高校の魅力向上や特色化を推進する。	有識者会議等 総合教育会議	・ 高校教育改革実行計画は令和8年度中を目途 ・ 同実行計画に基づく取組みは随時
3. 第2期・第3期「設置方針」及び「設置計画」 各期における新時代HSを着実に設置できるよう適宜、検討を進める。	総合教育会議 有識者会議等	新時代HS設置の 3年度前「設置方針」 2年度前「設置計画」
4. 学校名の検討の方向性 本県県立高校の名称の特徴や変遷等を踏まえ、以下の点に留意しながら、「こどもまんなか」の視点で検討する。 ① 所在する地域が分かること ② 親しみやすく、分かりやすいこと 新たな学校名とする場合は、「条例改正案」を取りまとめる。	有識者会議等 (第1期は新時代とやまハイスクール構想検討会議) 総合教育会議 ※条例改正案は総合教育会議で取りまとめ	新時代HS設置の2年度前 (第1期は令和9年度中を目途)
5. 同窓会の検討の方向性 募集停止・閉校となる学校の同窓会の取扱いについては、同窓会運営センターの設置等、今後、関係者のご意見をお聞きしながら具体的な検討を進める。	県（教育委員会事務局）	・ 取り扱いの方向性は令和9年度を目途 ・ 個別の取り扱いは随時
6. 県立高校として使用しなくなる校舎・敷地の活用方法 地域のニーズや住民の声、地方創生の観点等を勘案し、地元の市町村の意向を十分考慮しながら、今後検討・協議することとする。	県(知事部局及び教育委員会事務局)	随時